繪本甲越軍記二編 十

2258
22

明へ遠13
2259
22

沢清

甲越
21

二編
巻第十

繪本甲越軍記二編卷之十

目錄

東西合戰事
新山陣屋事
新山城合戰事
里見城合戰事
里田家寺血戰事
里田方迅太馬三度夜討事
金津伊豆寺戰死事
高田雅平木村作左衛門事

東條新蔵奮城ヲ使する事
[illegible]
使二千上田城事
阿緣方嫡長尾政景事

454

信本田越軍記二編巻之十

新山陥落之事

新くる梨源三郎と山田武蔵、文門等の内毎ふ上れ[illegible]
[illegible]時既ふ甚別よ[illegible]
毎三ヨ攻上ル黒田ガ勇将富田左馬ス助急門の櫓ふ上ろ[illegible]
[illegible]
駒役を貫ス是或ス胄の天辺を射ス[illegible]て八九人[illegible]
黒田和泉守[illegible]士卒小下知一[illegible]九を[illegible]門ふ[illegible]雨霰の[illegible]
ある梨勢ふ[illegible]死傷数ス[illegible]進ス[illegible]て見ベ[illegible]
大音小見若一ふ[illegible]攻ル[illegible]退く事の[illegible]係[illegible]
やく中ふ[illegible]て下知をれバ士卒等ル[illegible]ふ勵ス[illegible]雨の[illegible]

甲 55

新山城合戦之圖

狭丸の中を喪々敷して攻上る大将和泉守城門をこんせ冥加寺山
を崩るくだろう岡を作りて寄手の中へ味方かくり勇を震へく戦
たり高梨ゲ長従牧山玄蕃大将せんくぐまで馬とうけ寄突かる
和泉守ゲ居弱本孫正玄蕃代せくまう合上原下原ゑ戦ひ一騎
奮ひく打左刀小玄蕃ゲ捨をたくさ落し純方ゑ切つて落ん玄蕃ゲ
分牧山三平月新兵衛討ん何ん勝しを掛ふ爲さ大左刀振くれて
かくも右ゑ渡つ左ゑ拂ひ強ゲ寄ゑ切下ゲ寄る梨梨ゑ勝級を一
時ゑ次せんせ死人を除越一ヒ也ゑ戦ハ正面ゑ寄る大剛の
大将敷を一時ゑ殺敷さんと両軍の勇士剛卒滑ゑ奮ひ切く左り
東西ゑ彼ゑ西ゑ進廉市馳市くてハ組ぐ落貢を取貢を取ゑ一
左刀打くハ強敷上一而ゑ合左右ゑ別ま巴方ゑ敷ゲハ方ゑ白り斬ゑ

甲 456

ゑ次ゲ長孫ありとは正ぶり名る亟郎源兵衛元ゑ面ゑ武ゑ白り新山城ゲ
後ゑ落ゑ岡を作く攻ゑるて甚ゲ苦ゑるきバ搦手の軍将森兵衛ゑ
夫稼を押ゲ防ゲ強ひ城中ゑ人数を操出て大手搦手を殺ん
せ寄する時ゑ敵く内ゑ出て山田源ゑ弟文川隼人武藤平左衛門ゑ対
ゑ出ゑ敵を作り味方の陣へ切く入る城中ゑ出その印騒元
騒ぐこまん裏切の者ありと偽ゑ護の陣ゑ切く上ゑ下ゑ乱ゑたり二の
丸の将義田左馬助大ゑ怒り扱ゑ山田ゲ反逆せ一ようぶ。これバ一ゑ
あくゑと大将を落一も今山田ゑ味方ゑ逆せ一ようぶ。これバ一ゑ
て城ゑ合ゑ攻ゑ出ん城ゑ引ゲ込んで対ゑ出ゑ寄ゑ
出ゑ攻ゑ逆ん出ゑ雑ゑ七十ゑ乗ゑ口ゑ抜く山田武義ゑ和泉ゑ
大ゑ怒り山田の小幸廉女房ゑ奪ゑ一ゑ憤ゑ同忠せ一ゑ元ゑ

457 甲越

城中に押入らんとなせしを城内へ引入むとする所を高梨勢勇みつゝ附入に
三河と追へバ黒田勢取て返し鎗を揮ひ前後して追退し漸く八の丸へ
揉合しが和泉守ハさしもの勇者なりしと士卒ハ城中内廓の堅めありし中
寄手の足軽惣力攻に鉄砲の義勢ハ是を散々に防ぎ立て後勢を待て
逃入ましは和泉守も力なく敗走して引退き城中へ張入る所を高梨衆へ
長尾後中守が先手と一同に討入て山附搦手の城将も城内の戦ひに
必至と是より追々に切崩され二の丸さして引退けば大手搦手一同に
攻入おるを歩み切くて二の丸をも攻落し勇猛く押寄城中
されば城の山家築れたる城主是く鬼をも挫し面々奮戦に
退きて乱れ騒ぐ城将和泉守は討死とこそ聞へ来りて猛威益
鬼神の如く八方に馳廻り面々は火の手を揚げ中より切つて胸板

割付勢手に雑兵角縄に倒し北声慷声虎の荒るゝが如く奈変一方
修羅の勇を震ひ雲の如く寄来る敵を追ひ払ひ追返して実に希代
の形勢なりこれより付込の敵を忍んで黒田が勇将黒田左馬助
山田左近が勢を頼ひ吊しが戦二の丸に満くしるべ主人の身の上を
案じて陰をあげつゝ雑兵の中を立ち破て僅に近付て敵を
切て雑兵人の所を継ぎ堅横に雑兵を揮ひて妻紙
孫兵衛一文字に払てかゝりし左馬助を馬を馳合し人まとせば頭に
所へ山田孫五郎雑兵の左馬助が左の脇をぐさと突ければ富田
己も隣して馬より下に落る所を引起して首を取る加藤左衛門
左馬坂外記も後付し時黒田和泉守は猛獣を挫ぎて
採りしが其身今ハよぎなく敵の手に名を汚がり働自害

甲越 458

うつぐれば今は是とうつ[illegible]しく新参のものふ[illegible]なれ
ば[illegible]自害して[illegible]うつ[illegible]黒田の勇士元[illegible]
田組馬豊田与惣兵衛一柳主馬等主人の高恩を思ひ[illegible]
渚城に[illegible]三十騎人討死と軍[illegible]
一[illegible]源[illegible]風よ[illegible]孤[illegible]
[illegible]て妻我孫[illegible]山田源[illegible]
田和泉守[illegible]富田左馬助[illegible]虎[illegible]
[illegible]梁源三郎[illegible]山田源[illegible]
[illegible]度の忠功[illegible]
[illegible]両人頃[illegible]恩を謝[illegible]

黒流城合戦之事

甲越459

是より先黒田和泉守金津伊豆守勢ひ激しく[illegible]
[illegible]を浮足して接戦を[illegible]
[illegible]上田修理進[illegible]
田今津を[illegible]
和泉守戦亡せしかば黒流の伊豆守[illegible]
[illegible]
三将と今津伊豆守[illegible]黒流城の押として城を[illegible]十
[illegible]備し[illegible]
[illegible]黒田和泉守戦討死[illegible]
安宗[illegible]
[illegible]梁源三郎貞頼新山の城を
[illegible]黒流の城を押[illegible]二[illegible]三[illegible]城を踏[illegible]

大将金澤伊豆守が首級を一時に変ずんや軍城
し其夜あの和よし須頻に疫病流行海中の兵卒これに侵されて死亡る
その方く猿河守も亦此疫に染り空く日を送りて夏に至
り小雨後一あれば天文十八年六月廿四日中条越前守銃に傷
傷よ五子孫人黒滝の城へ押寄せ鬨の声を揚て攻かかる
城中の兵士皆城戸を頼み大筒を雨の如く放て拒ぎ戦へば寄
手も多く死傷の若おり代流れの猿河守もいんも物
まへすく攻あぐんでうろる之小中条越おきも先陣より進み味
方を多く討せるを口惜しくやこひろむ自馬を乗て出し堂二重
三ッ柵を踏破りむらく中を駆際より迫高塀小手紙うけ攀んと
ども城中よりの鉄砲を撃しく放ち大木石を投出し夜を
拒ぎ猛小中条越前守又夜中く討て若数を失ひ首級捕ること
引退く中を義合に管鉄下小猪兵ろ〳〵宇佐美猿河守も
使を飛日も暮よ苦小を討ろう遠く勢を引上ぬ中を退く小中
あれば中条越前守も人会ふ押へども為ることあれば何社出ず
なく潮よ勢を引上げこ陣ろう猿河の守令を出して城際より陣屋を
下お強く鉄砲を手練を撃ろ日く敵のむと流れ〳〵あれば城中の
強る軍機をこし敵勢海際の数ろ小遠く唯を攻小味方を遮ろん小城
そのもし遠ッよ敵の陣中城数ろ基遠ッ必せ一形勢ろう今宵一戦討て
敵の陣営を新さ一鬨と喫んせ黒岡内匠大島玄蕃六百姫猿三更過ぎ
人ろ数任卿し馬を乗代ちび〳〵て鉄砲良清少陣屋小近づき間を味
あげ喫何ぐ討てかう鉄ぐ勢鉄ひ〳〵ろ幸るれら場ぐ鬨

甲 461

敵

あと戻りもせず迎へ合せ戦ひ
彼方に対て入中条勢は
程なく小中重成おもむき
大よ男と山城ふ
退くと山西陣より宇佐美駿河守が備へる
が味方に脇小平次景宗
火流を一用小味也敵
むらく也打倒さる黒田大鳥
立中つ上るもあり
倒し手先を拵へ
より相国と云へ一声の火流雷と

敵

468

波四郎義房
左よ寄合
体して其後の軍
弱小対これ大鳥玄蕃
果く敗れ居
黒漆の味方に押寄
4 金津伊豆守
拙く小黒漆の味中
強勢強しべ
長門守三百騎
波勢
敵の陣先
敵四郎義房
左よ寄合
体して其後の軍
弱小対これ大鳥玄蕃
果く敗れ居
黒漆の味方に押寄
4 金津伊豆守
拙く小黒漆の味中
強勢強しべ
長門守三百騎
波勢
敵の陣先

就へ和留勢を不打洩れ岸辺に城中へ逃入こと勇名長門へ比類なく
なりぐしくうばくや男ひろん従平三十騎を陸へ城中あへ入て手をそろへて
為乙ろ寄手を竜ふ勇と冊遅義本を踏破てこと入こと城をもこと
彼く後ひ也続地を打ての霰を乱をぬく大本大石を拾ひ紙衣と長く
拒ご寄手又乱傷の若者をこと前を立て引んこと宇佐美の勢の中より
宮田衛平鉄ぐ勢の中より夫野孫八一枝を忠兵織の具足ぬ二人
等く躍り出高梨ぐ新山の城を落しかること城を落しかること人に語しかること
あるこ味中の防を刻ーをして跡退する武者振を見若ーあれ我と思
人くを行ぬ乱のこと口ーを鐵挺を引こけ乱来る夫石ぬ厭に柵を
彼ら城下ふ張寄本村信左衛門を忠つ寄手も実ふ人ふ苦ばこと
只く城下に独ら三人力をこと鐵挺をもくこと酒の角石と

夢こそ曳取んこと味中より流丸を乱を平刻ーく矢野孫八胴を
天色を打ぬまく例まこと乱を宮田本村をこと思まぬ力をこと
長こと角石一の紙引抜をれぬさこと堅固ふ築ぬこと石垣八九ぬぐ
同尾崎ふく也崩ぬこと実ふ同ふ崩ぬこと見こと宇佐
吳野味を早手裏ふ入こと我を乗ぬく大将の見ふ入こんを立ふ
雑人級ーこと石垣を足場こと。味と嘆く乗入る中ふ宮田衛平ハ
一番ふ張上ふ続地の十成雑例ーこと一番乗高田瀬平也名乗ふく駆入
ぬこと本村信左衛門と石垣紙駆と対右の足を打抜ーこれ宇佐ふ
駆く張上ふ本村信左衛門同二番乗ふ也ふ両人等く切て落ぬる
寄手を色ふ後を下也一同ふ乗入こと叫び罵ふく独迫こと当ぬ辛ひ
切例を激を当ふこと駆ぬこと二の丸へ引入こんこと宇佐美勢男ふ

甲越464

敵

戸

日ごろ二人も使とると老若男女の姫さく汁結より新例し血の姫と唱て敵へ引き金沢勢切殺すこの武百姓人悪曲輪を焼くまこの九小捕
大将今沢伊豆ち今日武士と名乗と妻子と長槍名弁蒲小赤
し最初の酒宴武徒し伊豆守汁と立てく扇を刺さこ刺者の酒いり
猛ある中れ酒宴あるうるせ舞ろれい妻女大小多ひいて御者とちあるんせ
つまち歯年十歳の男子と六歳の女子あるうを取く引寄経刀と抜く
ちう早く胸元を再刺く刺害し其刀と抜し我間小びんせ突き立
害ある城よ心刺ある婦人へうり見ていく例よある侍女思ひくふ母よ
其ろれく中害し伊豆吉下知して丸若きこ物を敷よ見白むせ伊豆
死殿の例よ城殺を捜ろ火と消く焼ろあるこ心安しさは討て出
そろ行殺ひ討死ぜんせ近士百姓侍人農武自べ女九の城戸とさいく

押ろ元雲霞の元敵の中へ面も物し行長斗んぞ突て出両陣小
突破ろ二陣よ切孔し歯弓若武者ひ小面ろ立く孔賊ちなんく
血戦と勇ろろ佐義勢も但殺諸小うて深ろ宇佐美
勇士塚田が名と名乗と名乗血よ深ろ大躰の後武引きご孔大将同げ
突く叫孔今沢ご勇士松田を針押く後を捕く塚田小討小塚
田抜くしやせ突く立よ斗捕く波あ小松田を助んせ沢続の弟大志
刀と電光のごく振ろし塚田武見げ討く叫宇佐美勢の中ちう土
波掃部頭大部小討ろうと人更もせ孔小育佐藤よ勇く義ん立ろう
ある甚野今沢ご勇士名ろうかこふ戦ひく討孔とけその三十人伊豆
守も同ろ後をしろと孔前後本突左右よろ変万孔して戦ひ
塚田が左慶ろ大将を討んせ心げ松田を針を付く首武引捨ん

466

反波汗を拭ひ、うつ進よ今は大将ごんろれ首は
我得れ、みなさんをせ張出し伊豆守小笠原
うら今はご誅伐ふ力や弱りぬん伊豆守
老刀筋孔ゝせ月るよう帰田前を乗つ得ぬ嘆し
の漂出成せ徹せやごすと寒く其横尤武すどう脇小突出れば
伊豆守たゝ今り得ぬ捨ぬ上つ門く対まち伝兵大将の討死を見る
ようう今ハ流が為よ生んをせ名必死の働し八十騎男ひくよ討死
ぬ今日対死を武の首を伊豆守の首を
中を兵後ゝ今は伊豆守が首及び弟子五百騎級源氏の者一人後河古城
人の士卒に拾せ府内の城へ送り申れば見る人の袴を清し
首を武と拳く見物する事市れ

米津新五衛使二子面城一事

新山里流の西城明
永虎が武威日々小盛ゝ国中小和ゝ長尾に属せ従ふ
皆自縛して箕下小屈ゝ
ゝ廉ゝ自足利将軍義輝公宣ゝ永虎若年ゝ
一国を平定る軍功莫大ゝ御内書ゝ賜ひ其上白傘
袋毛氈の鞍覆を許し給ふ大覚寺門主ゝ永御書あり大覚
湾ゝ晴光ゝ書礼を頂りて足利家の首尾山序管領上
杉会那大補憲政も使者ゝ
同郡ゝ是全ゝ備時の力ゝ
吳駿河守横溝和泉守宮梨源三郎中左弥左衛門彩数田尾

及波汗を拭ひ、うすへ大将ごんろれ首は
我得物みなさんなをせ張出し、侍臣守小家く[illegible]上候と敷よ
うら今はゞ孫兵衛おく[illegible]れ、くびをふ力や弱りゝん侍臣をちら
左刀筋孔ゝ世ゝるよう源田五郎兵衛つ得ゝ[illegible]ゝ侍臣をも獲
の深出成を徹底せ、ぐゝと寒く其後大武すゝ[illegible]脊小突出ゝ
侍臣をもたゝ今ゝ得ゝと後玉よ[illegible]ゝ付きゝ孫兵衛大将の討死をゝる
ゝう今ハ流が為よ生んをふ名ゝ死の働し八十余騎男ひくよ付死
ゝ今日対孔をゝ孫の首我子ゝ百余騎級源氏の者一ゝ余人孫河ゝ城
中を兵後ゝ今は侍臣をゝ首及び我子ゝ百余の首を持よ結付教首
人の士卒に持せ府内の城へ送りあれゝ見るゝの旅を清しあゝ
首ゝ我ゝと拳く見物する事市れゝ

新山里城の両城既ゝ落去し逆徒悉く亡滅し国中一変よ治り已ゝ
永虎ゝ武威日ゝ盛ゝ国中ゝ[illegible]ゝ長尾ゝ属せゝ我法ゝ
皆自縛して筑下ゝ属ゝくれゝ逆徒の天よ登城ゝ降ゝ風を
考ゝ廃ゝ旨ゝ利将軍義輝公ゝ[illegible]永虎若年ゝ
一国を平定ゝる軍功莫大ゝ御内書ゝ賜ひ其上白傘
袋毛氈の鞍覆を許し給ふ大覚寺ゝ門主ゝ永御書あり大殿ゝ
湾ゝ佐晴光ゝ書礼を贈りて足利家の旧恩ゝ忘れ給ふ上
杉弾正少弼憲政も使者ゝ[illegible]ゝ意情深ゝ[illegible]ゝ永虎
同列ゝ[illegible]ゝ是全く備時の力ゝ[illegible]ゝ
吳駿河守[illegible]和泉守宮梨源三郎中法師[illegible]新発田尾

張守大膳亮常春孫十郎宗行侯奉行ちの兵見次郎左衛門尉山
城守と称近年の軍功あるに依て軍功の新恩を宛行ふ長尾上
田の城を長尾越前守房景に与ふ天文六年長尾遠江守景
晴糸よりせ一ぶ晴景糸ぶ国弱を伐て常山の城を攻て上田
の城を攻る世間の評ど月人会長ろ一ぶ糸虎使を用く和睦を通
遠下府内より出仕あるべき旨仰せ越前守今より於ては府
内に居住べき到は頃越前守晴景虎ぶ盛あると聞く遠く軍に出
よ一ぶ不見院一作彼上田に居ると聞くに依て
糸虎見城丸さんぶ為に茶は新参衆と使ふ一上田より考一抑も家老
同宗の間あり乗自分の一族ろ和睦一さ申ろ半後に晴景を助
ろ一ぶ黒田金陸ふ与一ぶ一ろ上と上杉ぶ遠ろ長尾ぶ家の

中 467

新ぶ敵止ぶ死を以ぶ此方ぶ元頼ぶ種ぶ
より先ぶ使として遣ぶ和睦を調一ぶ今小於ぶ府内ぶ出仕ぶ
ぶ為ぶ考ぶ其上ぶ頃関苍の悦頼ぶ軍馬と誉へ合戦あ一ぶ企の
ある由ぶ聞ぶ某遠ぶ馬と出仕ぶ元親を貢んとされども同姓と
交ん事と歌ふ故再び好意を遠ぶ元親寄ぶ成ろ一ぶ糸虎ぶ対一
不足の事ぶ申ぶ再び攻ぶ長尾越前守も糸虎ぶ同名
ぶは服一某ぶ於ぶも全く仏意と存ぶ不ぶ他を年病病のあ
る者ぶ同を与ふ付ぶ案ぶ不ぶ家の関係絶ち事と一ぶ一んやと存ぶ者の所
業ぶ一ぶ一ぶ深謝あ一と存ぶ一ぶ其儀止ろ一と一ぶも程府内ぶ
出仕ぶ一ぶ一上越前守ぶ良庭信井侍従殿の意ぶ仰ぶ上田と遣ぶ
ら祝一と姫ぶ府内ぶ来ぶ越前守ぶ中ぶ仰ぶ一ぶ亜ぶ取沙汰ぶ一ぶ

468

敵

て強勢なる長尾平六郎後家なり逆徒を思ひ和泉守今は浮世をもと計り
一國を平定せんとの望み常に絶えざる所ふあんや其上ぞ伝来後可守
かんぜ軍卿秀こそ将帥ひく強弧助あ其外智勇絶倫の将士
頗るなり長尾平六郎を猛将とひ大身せのひ是ふたく将士系ふ是其
時ふ国中小逆徒蜂ん起る時小者て終を平治せる事時運といひつべし
其後の者へりくる事程斯のごとし
商家れ勢ぜ合さん事勝敗を俟そして和議を計ひ
家虎が婦未ぐ府内の源国さあるこ婚姻を結ひのつく五郎若ふ家虎
の婦幸なるこば君の用ひ法よく表る縁を結ふよ仰く其宴ふ人数と入らく
やー次家虎の事あらば其時冥ふ孤く深いるべども直ち府内ふ所使
して和議を図へやうんぜ以て強あれば房家もこ終ふ用者あり

睦

和を隔深絶ひこーぜくく八月上旬上田の城退治あるべーぜ軍議神
て法將名其用意ぜなーこうる
阿綾の方長尾政家
天文二十年七月長尾越前守房家其子五郎政家一端家虎ぜ和
睦あるこ不出仕るが上浅井伊豆ふ強ひふよう家虎
進く上田攻向わるべーぜ安倍紙帯守房家法士紙集先陣城あり
あるん家虎迫日商嫁城攻んち支度なる由事ふ風雲あり勢を伺く
陣と戦を定るこ紙又和議を須べく事を計んう名状意ぞ一方端
乃見脱得失の境陣ふ陣海あるべーぜあり所ば法士おのく面を見合
まぐこ見非の猛強を出とこのなく黙して居こうる時ふ栗林紀伊
金ふ与十郎進く出陣退ひく者る不景虎未廿二歳の若侯とし

其後の家臣に栗林肥前守金子典
十郎右衛門尉の城を攻て落城す府内の城を攻て落城す
糸改糸が盟書を受け吳れ兄有氏捧く謝し沒後の幸と
なれば糸虎りとろ門宗也合戦あり
言伝宗門と則射面あり捧く和睦を乞し弁駕の幸全く調ひ
上国の弟り長尾と捧の景虎が姉阿綾の方を迎へ長尾の名改糸也と台
金松斗く綱り附小改糸後の越前守と号す二十六歳阿綾の方二十四歳其容貌優
頗る美人の聞あり宵小より改糸が家老泥[illegible]の[illegible]偽の契成りざれば女を
手枕を囲へ万寿を産ませ小弟く九月上旬越前守房糸五郎改糸
府内の城を出仕あり[illegible]糸虎怪斜なれば[illegible]
姻家の情濃なり是より糸虎と越前守父子の勇到を[illegible]

越前守と糸虎の大度小服一至小唇歯の変り成り[illegible]
業日を追く起る[illegible]実法小面潤を湯[illegible]
扨小働[illegible]の肩内も行路[illegible]の幸[illegible]